

「教育サービス面における社会貢献」評価報告書

(平成12年度着手 全学テーマ別評価)

旭川医科大学

平成14年3月

大学評価・学位授与機構

大学評価・学位授与機構が行う大学評価

大学評価・学位授与機構が行う大学評価について

1 評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう、大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、その教育研究活動等の改善に役立てるとともに、評価結果を社会に公表することにより、公共的機関としての大学等の諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

2 評価の区分

機構の実施する評価は、平成 14 年度中の着手までを段階的実施(試行)期間としており、今回報告する平成 12 年度着手分については、以下の 3 区分で、記載のテーマ及び分野で実施した。

全学テーマ別評価（「教育サービス面における社会貢献」）

分野別教育評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

分野別研究評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

3 目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は、大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう、当該大学等の設定した目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため、大学等の設置の趣旨、歴史や伝統、人的・物的条件、地理的条件、将来計画などを考慮して、明確かつ具体的な目的及び目標が設定されることを前提とした。

全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について

1 評価の対象

本テーマでは、大学等が行っている教育面での社会貢献活動のうち、正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について、全機関的組織で行われている活動及び全機関的な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動を対象とした。

対象機関は、設置者（文部科学省）から要請のあった、国立大学（政策研究大学院大学及び短期大学を除く 98 大学）及び大学共同利用機関（総合地球環境学研究所を除く 14 機関）とした。

各大学等における本テーマに関する活動の「とらえ方」、「目的及び目標」及び「具体的な取組の現状」については、「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」に掲げている。

2 評価の内容・方法

評価は、大学等の現在の活動状況について、過去 5 年間の状況の分析を通じて、次の 3 項目の項目別評価によ

り実施した。

- 1) 目的及び目標を達成するための取組
- 2) 目的及び目標の達成状況
- 3) 改善のためのシステム

3 評価のプロセス

大学等においては、機構の示す要項に基づき自己評価を行い、自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。

機構においては、専門委員会の下に、専門委員会委員及び評価員による評価チームを編成し、自己評価書の書面調査及びヒアリングの結果を踏まえて評価を行い、その結果を専門委員会でき取りまとめた上、大学評価委員会で評価結果を決定した。

機構は、評価結果に対する意見の申立ての機会を設け、申立てがあった大学等について、大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

4 本報告書の内容

「対象機関の現況」及び「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」は、当該大学等から提出された自己評価書から転載している。

「評価結果」は、評価項目ごとに、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

また、「貢献（達成又は機能）の状況（水準）」として、以下の 4 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いている。

- ・十分に貢献（達成又は機能）している。
- ・おおむね貢献（達成又は機能）しているが、改善の余地もある。
- ・ある程度貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要がある。
- ・貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり）、大幅な改善の必要がある。

なお、これらの水準は、当該大学等の設定した目的及び目標に対するものであり、相対比較することは意味を持たない。

また、総合的評価については、各評価項目を通じた事柄や全体を見たときに指摘できる事柄について評価を行うこととしていたが、この評価に該当する事柄が得られなかったため、総合的評価としての記述は行わないこととした。

「評価結果の概要」は、評価結果を要約して示している。

「意見の申立て及びその対応」は、評価結果に対する意見の申立てがあった大学等について、その内容とそれへの対応を示している。

5 本報告書の公表

本報告書は、大学等及びその設置者に提供するとともに、広く社会に公表している。

対象機関の現況

旭川医科大学（以下「本学」という。）は、いわゆる新設医科大学として昭和 48 年に最初に設置されたもので、わが国の医師数を欧米並みに増やそうとする当時の国の政策と医療過疎に悩む北海道民の声が一致したことによるものであり、以来今年で 28 年目を迎える。

本学の学部・研究科の構成は、医学部医学科 32 講座（うち基礎医学系 14 講座，臨床医学系 18 講座），看護学科 3 講座，一般教育系 12 学科目，医学系研究科 5 専攻 17 部門である。本学は当初医学科として学生定員 600 名であったが，平成 8 年度からは，超高齢化社会の出現などの激変する社会情勢に対応すべく，看護学指導者養成を目的に看護学科が増設され，現在 2 学科で学生定員が 855 名，教員数が 276 名である。

本学は人口約 36 万人の北海道第 2 の都市である旭川市の郊外に位置し，約 2.3km² のキャンパスの中には基礎臨床研究棟，講義実習棟，臨床講義棟，看護学科棟，各種運動施設などに加えて，附属施設として附属図書館，保健管理センター，附属動物実験施設，附属実験実習機器センター，放射性同位元素研究施設，情報処理センターを擁し，医学教育・研究・福利厚生施設として利用されている。更に，600 床をもつ附属病院は，卒前・卒後の臨床医学教育の場として，高度先進医療を行い地域の中核病院として機能している。現在，器官系別診療システム，遠隔医療を活用した地域医療総合システムの構築，患者アメニティーの改善などを目指した病院再開発計画が進行しつつある。

本学は，「医療の質を向上させ地域医療問題を解決することにより社会に貢献し，患者の苦しみを理解しその改善に最善を尽くす高度な実践的臨床能力を有し，患者の人権，生命の尊厳，QOL などに高い生命倫理観を有する良い医師及び看護職者を育成する。医学・看護学に関する最先端の高度な研究を行うための豊かな人間性と幅広い学問的視野を持つ優れた研究・医療実践者の養成に努める。医学・看護学の教育・研究及び医療活動を通して国際社会との連帯を深め，その発展に貢献する。」を教育理念に掲げ，この実現のための教育目標を明確に打ち出すとともに，コア・カリキュラムの早期導入に向けた検討，チュートリアル教育，統合カリキュラム，早期体験実習，客観的臨床能力試験（OSCE），クリニカルクラークシップの実施など様々な教育改革が進められている。本学の卒業生は約 2,300 名を数え，その約 7 割は北海道内に在住し，医師，医学研究者，医療行政者及びその他の医療関係者として活躍している。

教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

1. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

大学は社会に対して門戸を開き、地域社会・産業界などとの連携・交流の推進や社会への知的啓発など様々な社会貢献に対する期待が寄せられている。特に本学は北海道、特に道北・道東地域における医学・医療の重要な拠点であり、地域社会に対する教育サービスを社会貢献の重要な一環と位置づけ、以下の視点から教育サービスを実施する。

）医療従事者の生涯学習及び職業能力の向上

北海道、特に道北・道東地域は広大で、かつ、離島を含み交通の便に恵まれず、特に冬期間の診療では多くの困難を伴う地域もある。本学の卒業生の多くは道内のこのような地域医療に従事している。医療従事者への生涯学習や職業能力の向上への貢献は、本学の創設の趣旨からも果すべき役割として極めて重要である。したがって、本学では地域社会・地域医療と密接な連携を図り、医療従事者に対する教育サービスセンターとして機能を果たすことにより、国民の健康と福祉の向上に貢献する。

）地域住民への予防・健康医学等の啓発活動等

社会の高度化・複雑化は、生活のゆとりと相まって生涯学習の気運を高めている。一方、患者中心のインフォームド・コンセントを重要視する 21 世紀の医療は、国民の医学・医療への関心を高めており、本学はこのような社会のニーズに応じて地域住民の予防・健康医学などの生涯学習を促し、その機会を提供するとともにそのための講師等の人材派遣を行う。

）地域住民の知的啓発のための学習の場の提供

科学立国を目指すわが国では、大学は積極的に社会人や青少年に科学への関心を高め、自主的に科学学習するための機会と場所を提供することが求められている。青少年から社会人に至る幅広い年齢層の地域住民の科学学習に関するニーズに応じて、大学の施設を開放する。

2. 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

(1) 目的

本学の設置趣旨に基づき北海道、特に道北・道東地域における医学・医療の中核的拠点として、最新のエビデンスと本学が培った高度先進医療の成果を駆使して以下に述べる教育サービスを提供する。提供する教育サービス内容及び方法の基本的な性格は以下のとおりである。

）地域医療を担う医療従事者の生涯学習及び職業能力の向上への貢献

医療従事者の生涯学習及び職業能力の向上へ貢献するために、旭川医科大学フォーラムの開催、本学教官の主導による研究会・講演会・講習会等の開催、遠隔医療システムを利用した地域医療従事者への医療技術指導等、ホームページ等による最新の医学・医療情報の発信等の教育サービスを実施する。また、遠隔医療システムを活用して地域基幹病院、離島や僻地との連携による救急医療を含めた地域医療の支援を行い、職業能力の向上に貢献する。更に、本学に今年度設置された医学教育実践指導センターに生涯教育部門を整備し、医療従事者への体系的、継続的生涯学習を企画・立案し、実施する。そのため、教育サービスとして提供する内容が地域における医学・医療ニーズに沿ったものになるよう、各医療関係団体、医療機関等と連携し、それらのニーズを十分に把握するシステム作りも行う。

）地域住民への予防・健康医学等の啓発活動等

高齢化社会の進展と生活習慣の欧米化に伴う高血圧、肥満、糖尿病、高脂血症などに起因する脳卒中、心筋梗塞、心不全、肝不全、癌など生活習慣病の予防には、食習慣の是正、禁煙、適正な有酸素運動習慣の実践等が不可欠である。また、社会の高度化・複雑化は児童虐待・不登校といった精神身体的な面に関する様々な社会問題を生み出している。更に、地域社会は高齢者・障害者の介護・福祉に関わる問題や、シックハウス症候群のような生活のアメニティーに関わる様々な問題を抱えている。これらの様々な問題の解決に貢献するために、地方公共団体、学校、学会等との連携の下に、一般住民を対象としてこれらを内容とする研修会・講演会・講習会等の開催や、そのための講師等の人材派遣を行う。また、新聞・放送などの各種メディア、ホームページや公開講座などにより、健康・予防医学等についての啓発活動を

行うなど、生涯学習の機会と場を提供する。

）地域住民の知的啓発のための学習の場の提供

青少年から社会人に至る幅広い年齢層の地域住民の科学学習に関するニーズに応じて図書館、附属研究施設等を開放する。

(2) 目標

目的で述べた意図を実現するために、以下の課題を設定する。

）医療従事者の生涯学習及び職業能力の向上

旭川医科大学フォーラムの開催

研究の内容・成果を学内外に公開する場として旭川医科大学フォーラムを開催する。旭川医科大学フォーラムでは、本学の教授を中心とした教官が研究内容とその成果を講演し討論する。参加対象者は、本学の教職員、学生に加えて地域医師会会員等とする。また、講演内容は本学が発行している旭川医科大学研究フォーラム及び本学ホームページに掲載する。また、遠隔医療システムを活用して、離島・僻地等の参加したくても参加できない医療従事者へ提供することも検討する。

本学教官が主導する研究会講演会講習会などの開催

数多くの研究会、講演会、講習会等の開催を通じて、大規模臨床試験の成果・治療ガイドラインなど、医学・医療技術に関する最新の情報を提供し、北海道、特に道北・道東地域における治療の進歩・質の向上に貢献する。これらは医師のみならず、看護婦、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、臨床工学士、栄養士なども対象とする。また、これらの計画の企画・立案・実施にあたり、その対象、内容・テーマ、講師、方法、開催時期等について体系的・継続的に検討するために医学教育実践指導センターの体制整備を行う。また、これらの実施には教員の協力が不可欠であり、教授会等を通じその意識の啓発に努める。

遠隔医療システムによる医療技術指導

遠隔医療システムを活用し、地域基幹病院との連携により地域医療従事者への手術や診断支援などの技術指導を行い、医療従事者の職業能力の向上に貢献する。また、更に遠隔医療システムを活用して米国ハーバード大学医学部、中国南京中医薬大学との国際間の情報交換、国際交流により得られた成果も医学・医療情報として発信する。

ホームページによる最新の医学・医療情報の発信等

ホームページを利用して本学の各部門、講座、診療科の最新の研究、診療内容とその実績、高度先進医療、臨床治験、大規模臨床試験など、近い将来の医学・医療の方向性を提示するための情報を発信する。また、医療従事者の生涯学習に資するため、本学図書館を開放する。

）地域住民への予防・健康医学等の啓発活動等

研修会・講演会・講習会等の開催

地域住民の抱える様々な身体的・精神的問題等の解決に貢献するために、研修会・講演会・講習会等を開催する。また、地方公共団体等が主催する研修会・講演会・講習会等へ本学教職員を講師等として積極的に人材派遣する。また、それらのための人材リストを本学ホームページ等で公開する。

新聞、放送などの各種メディアやホームページを介した地域市民への情報提供と啓発活動

新聞、放送などの各種メディアやホームページを介して、生活習慣病を含めた各種疾患に加え、精神衛生、健康増進等についての情報提供と啓発活動を地方公共団体などとの連携により行う。

公開講座の開催

地域住民を対象に予防、健康医学等に関する公開講座を行う。公開講座のテーマは公開講座委員会によるアンケート調査等の結果・分析を基に、そのニーズやタイムリー性などを十分に検討した上で決定する。また、公開講座の一環として、医学教育実践指導センターに整備されるスキルス・ラボラトリーを活用し、心肺蘇生術などの初歩的な医療技術の体験学習を実施する。

）地域住民の知的啓発のための学習の場の提供

図書館の開放

地域住民の医学・医療情報習得を含めた科学学習のニーズに応え、本学図書館を地域住民に開放する。開放に当たっては地域住民のニーズの多い図書コーナーを設ける等を検討する。

教育研究施設の開放

青少年の医学を含めた科学への関心を高めるため、夏休み期間等に学内の機器センターなどの研究施設を開放する。

3. 教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

）医療従事者の生涯学習及び職業能力の向上

旭川医科大学フォーラムの開催

教育・研究担当副学長が責任者となってその内容等を企画し、年間を通じてセミナー形式により実施。

研究会、講演会、講習会などの開催

本学の各部局によって主催し、又は医療関係者の学会・団体などとの協力・連携により実施。

遠隔医療による医療技術指導等の支援活動

本学と地域基幹病院等などとの間でITを利用して行われる遠隔医療技術指導等支援活動を実施。

ホームページによる医学・医療情報の発信及び本学附属図書館の開放

本学ホームページ及びそれにリンクした様々なサイト。

) 地域住民への予防・健康医学等の啓発活動

研修会，講演会，講習会などの開催等

本学の各部局によって主催し，又は医療関係者の学会・団体，地方公共団体，学校等，患者・介護者の団体等との協力・連携により実施。

新聞，放送などの各種メディアやホームページなどによる情報の発信及び啓発活動等

本学の各部局又は関係者による，メディアやホームページを介した情報発信及び啓発活動等

公開講座の実施

本学公開講座委員会の企画による公開講座の実施。

) 地域住民への知的啓発のための学習の場の提供

図書館の開放

本学附属図書館の地域住民への開放。

教育研究施設の開放

実験実習機器センター等の地域住民への開放。

評価結果

1. 目的及び目標を達成するための取組

旭川医科大学においては、「教育サービス面における社会貢献」に関する取組として、旭川医科大学フォーラム、研究会・研修会・講演会・講習会、遠隔医療による医療技術指導等の支援、各種メディアやホームページを介した情報発信及び啓発活動、公開講座、図書館・教育研究施設の開放などが行われている。

ここでは、これらの取組を「目的及び目標を達成するための取組」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

旭川医科大学フォーラムは、平成 11 年 3 月から月 1 回程度開催し、大学の基礎研究、臨床研究の公表の場として位置付け、各分野の様々なテーマが取り上げられており、学内のほか地域医師会会員に開放している。また、日本医師会生涯教育講座の認定を受け、受講者はその単位を取得できるものとなっている点は、特色がある。

さらに、講師も学内だけでなく、学外からも招いて 1 回当たり 2 人の講師により実施し、内容の充実を図っている点や、講演内容を年 2 回発行の研究フォーラム誌に掲載しフォーラム後の資料の入手もできるようにしている点は、実施方法・内容として優れている。

医療従事者に対する研究会、講演会、講習会は、医師のみならずコ・メディカルスタッフ（薬剤師、看護婦・士、保健婦、栄養士、放射線技師等）を含めて様々なテーマで実施しており、また、実施されている地域も、旭川市を中心として、道北・道東地域及び北海道全域に及び、広く生涯学習と職業能力の向上に貢献する優れた取組である。

遠隔医療システムによる医療技術の指導・支援は、ほぼすべての診療科が利用できる医療機器を整備し平成 11 年度より実施しており、医療従事者の職業能力の向上に貢献する優れた取組である。

インターネットを利用した医学・医療情報の提供は、薬剤部において、薬剤師を対象に医薬品に関するデータをデータベース化しての新情報の提供や、一般市民に対して、薬に関する疑問・不安の解消と適切な薬物療法について説明するため、電子メールを利用してその相談に応

じる「メールお薬相談室」などが行われており、医科大学の特色を生かした優れた取組である。

しかし、これらの情報発信は、薬剤部など一部の部局での取組となっており、改善の余地もある。

公開講座は、成人・老年病、臓器別疾患、心と体の問題など社会や地域のニーズ等を考慮したテーマを取り上げ、20 歳代から 60 歳を超える幅広い年齢層の受講者に対して予防・健康医学について啓発する優れた取組である。

また、開催に当たっては、開催時間を 18 時からとし、場所も市内のホテルを利用するなど、受講者の利便性を図っている点も優れている。

貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

2. 目的及び目標の達成状況

ここでは、「1. 目的及び目標を達成するための取組」の冒頭に掲げた取組の達成状況を評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成状況の程度を「達成の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

旭川医科大学フォーラムは、全体の参加者数に対して学外からの参加者が少なく、この点について改善の余地がある。

遠隔医療システムによる医療技術指導・支援は、ネットワークを形成している病院は 26 機関で、眼科がその半数以上を占めている。また、遠隔医療センターの利用数も眼科、放射線科、病理部がほとんどで、そのほかの診療科の利用はわずかであり、拠点の拡大など改善の余地がある。

公開講座は、定員充足率が平成 8 年度の約 40 % から平成 12 年度の約 74 % と増加しているが、いまだに定員を満たしておらず、この点について改善の余地もある。

しかし、講座の 7 割以上出席した者の修了率は、平成 8 年度の約 74 % から平成 12 年度の 80 % と年々増加しており、また、アンケート結果では、多くの受講者が「満足した」、「やや満足した」と答えていることから受講者の満足度は高く成果を得ている。

附属図書館の学外利用者数は、平成 8 年度の 553 人から平成 12 年度の 1,218 人と 2 倍以上に増加し、また、オープンキャンパスや理科課外授業等による実験実習機器センターの見学者数も、平成 8 年度の 94 人から平成 12 年度の 251 人と大きく増加しており、地域住民の知的啓発のために貢献している。

達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

3. 改善のためのシステム

ここでは、当該大学の「教育サービス面における社会貢献」に関する改善に向けた取組を、「改善のためのシステム」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

各活動の改善に向けて、教育・研究活動に教育サービスに関する活動を含めて自己点検・評価が行われているが、外部からの意見を取り入れるシステムが整備されていない点は改善の余地がある。

公開講座は、公開講座委員会が企画・運営し、受講者の受講後のアンケート結果を委員会で検討するとともに、各講演者にフィードバックし、以後の講座の改善に生かしており、その他の活動も、全学的な組織や委員会、各部局において運営から改善までの取組が行われている点は優れている。

一方、医療従事者や地域住民を対象とした研究会、講演会 講習会などの一部の取組については、参加者のニーズや満足度が把握されておらず、改善を要する。

また、各活動において、アンケート調査等による参加者のニーズ以外にも、幅広い社会的ニーズを把握する点に改善の余地もある。

機能の状況（水準）

改善のためのシステムがある程度機能しているが、改善の必要がある。

評価結果の概要

1. 目的及び目標を達成するための取組

特に優れた点及び改善点等

旭川医科大学フォーラムは、日本医師会生涯教育講座の認定を受け、受講者がその単位を取得できるものとなっている点は、特色がある。また、実施方法・内容としても優れている。

医療従事者に対する研究会、講演会、講習会は、広く生涯学習と職業能力の向上に貢献する優れた取組である。

遠隔医療システムによる医療技術の指導・支援は、医療従事者の職業能力の向上に貢献する優れた取組である。

インターネットを利用した医学・医療情報の提供は、医科大学の特色を生かした優れた取組であるが、薬剤部など一部の部局での取組となっている点は改善の余地もある。

公開講座は、幅広い年齢層に対して予防・健康医学について啓発する優れた取組である。また、受講者の利便性を図っている点も優れている。

貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

2. 目的及び目標の達成状況

特に優れた点及び改善点等

旭川医科大学フォーラムは、全体の参加者数に対して学外からの参加者数が少ない点に改善の余地がある。

遠隔医療システムによる医療技術指導・支援は、拠点の拡大など改善の余地がある。

公開講座の定員充足率は、増加しているものの定員を満たしていないためさらなる改善の余地もあるが、受講者の満足度は高く成果を得ている。

附属図書館の学外利用者数及び実験実習センターの見学者数は増加しており、地域住民の知的啓発のために貢献している。

達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

3. 改善のためのシステム

特に優れた点及び改善点等

各活動の改善に向けて、自己点検・評価が行われているが、外部からの意見を取り入れるシステムが整備されていない点は改善の余地がある。

各活動は、全学的な組織や委員会、各部局にて運営から改善までの取組が行われている点は優れているが、一部の取組では参加者のニーズや満足度が把握されておらず、改善を要する。

また、幅広い社会的ニーズを把握する点に改善の余地もある。

機能の状況（水準）

改善のためのシステムがある程度機能しているが、改善の必要がある。